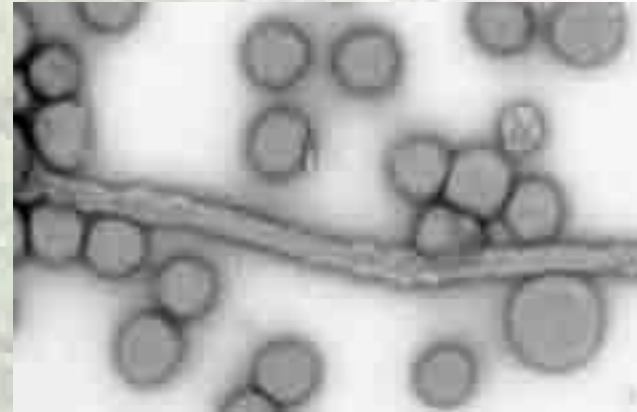


いのちをまもる 衛生薬学

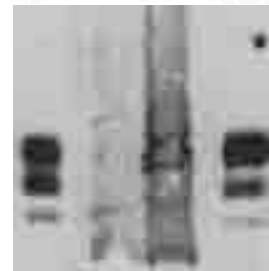
「いのち」をまもるための大切な薬学
それが衛生薬学です

病原性ウイルスとどう闘う？



新たな感染症の出現が人類にとって脅威となっています。鳥インフルエンザウイルスやSARS（重症急性呼吸器症候群）ウイルスといった新興の病原性ウイルスが、国際的な社会問題を引き起こしています。写真はインフルエンザウイルスの電顕写真（国立感染症研究所提供）。

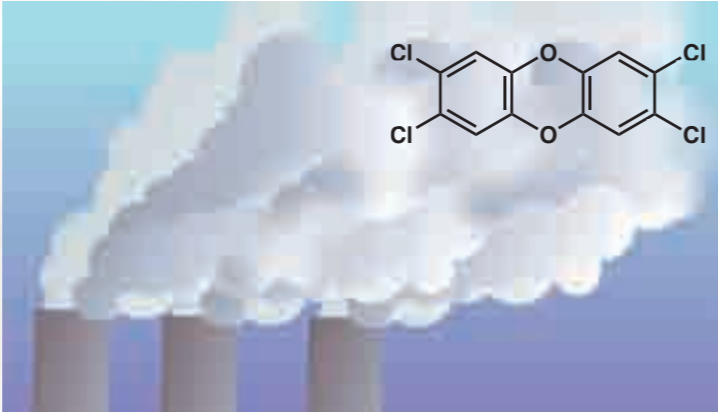
食の安全を守るために



ウシ海綿状脳症(BSE)の発生が日本でも大きな社会問題となりました。現在、食品衛生を管轄する関係機関等では食品としての安全性を確保するための検査が実施されています。写真は抗体を使ったウェスタンブロッティング法による異常プリオンの識別方法を表しています。1は異常プリオン標品、2～4が被験材料のウシ由来の試料。試料2、3は陰性、試料4が異常プリオンを含む陽性であることがわかります。

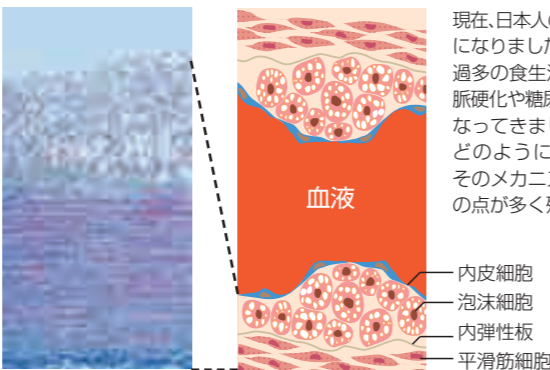
ファルマシア 38巻 p.659より改変して転載

ダイオキシンの怖ろしさとは？



多くのゴミ焼却施設でダイオキシンが発生していることがわかってきました。非常に分解されにくく、体にたまりやすい性質があるので、母親の体内に蓄積したダイオキシンが胎児に奇形を引き起こす危険も指摘されています。

動脈硬化はなぜ起こる？



現在、日本人の食生活は非常に豊かになりました。その反面、カロリー過多の食生活から、多くの人が動脈硬化や糖尿病に罹患するようになってきました。こうした病態はどのように進行していくのか、そのメカニズムには、まだ未解明の点が多く残されています。

内皮細胞
泡沫細胞
内弾性板
平滑筋細胞

Column

Public Health

「衛生薬学」では、「コミュニティの組織的努力を通じて、疾病を予防するとともに、寿命を延長し、精神的・身体的な健康の増進を図る科学、技術」として公衆衛生（public health）の考えを学びます。我々の健全な生活を支えていくための学問です。現在、高度に発達した文明の陰で、有害化学物質による環境汚染や新たに猛威をふるう感染症、栄養過多がもたらす生活習慣病などの問題が深刻化しています。こうした問題も新たな克服課題としてとりあげられています。

▶「洛中洛外図」住吉貞慶 筆

清潔な当時の京都の町並みに人々が生き生きと生活している様子がうかがえます。道路に排泄物を投げ出すという習慣があった17世紀頃のヨーロッパの都市に比べ、当時の日本の都市は衛生環境が優れていたといわれています。



医療現場の一員として

薬剤師は医療の現場で
処方せんの確認・調剤・薬の交付・服薬指導に加え
薬の副作用からも患者さんを守っています

医療現場の薬剤師って、どんなことをしているの？



病院の薬剤師：医療チームの一員として主に入院患者さんの薬学的ケアを行っています。医師、看護師等と共に回診、カンファレンスへ参加し、患者さんの病態、問題点をより詳細に把握し副作用を予防します。



服薬指導：薬のみ方、使い方、副作用の初期症状など、患者さんが正しく薬をのんだり、使えるよう説明します。



調剤：処方せんの薬の量、相互作用、配合などを確認したり、個々の患者さんに合わせた投与量や剤形を検討し内服薬、注射薬などを調製します。



保険薬局の薬剤師：地域医療の担い手として主に外来患者さんの薬学的ケアを行います。薬歴の一元管理により副作用、相互作用を防止し、一般薬や健康などに関するさまざまな相談に応じています。



チーム医療のなかの薬剤師

患者さんの情報と、集積された多くの医薬品情報をもとに安全性を考慮した薬の量、剤形、投与方法などを確認、検討し、副作用の予防、早期発見に努めます。患者さんの薬歴管理や、処方された薬の疑義紹介など、医師と連携して最適治療をめざします。

